来賓挨拶

ファイザー株式会社　代表取締役社長
梅田　一郎

出捐企業でありますファイザーを代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は朝9時50分からの非常に長い時間、41題のご発表ということで、これまで以上に充実したフォーラムとなりました。

まずは座長の労をお取りいただいた6名の先生方に心より感謝申し上げます。それと共に、発表者の皆様のご研究のますますのご発展を祈念したいと思います。

今年の助成公募には226件の応募があり、31件採択されました。採択された皆様方には心からお祝いを申し上げます。採択者の皆様には今後の研究の成果を2年後にこのフォーラムで発表いただけることをたいへん楽しみにしております。

選考のご苦労などにつきましては、このあと永井先生よりご紹介いただけるものと思っておりますが、大変ご多忙の中、多数の応募案件のご審査をいただいた選考委員の先生方には心より感謝申し上げます。

先ほど厚生労働省の福島靖正課長様よりご挨拶いただきましたが、今年もヘルスリサーチフォーラム及び研究助成金贈呈式に厚生労働省のご後援をいただいており、出捐企業として心より感謝いたします。

看板に、第19回フォーラム、そして助成については第21回と示されておりますけれども、財団そのものは1992年の3月に設立されて、今年がちょうど20年目です。2年前に公益財団法人に移行しております。財団事業の最も重要なところがこの研究助成で、決して大きな助成ではありませんけれども、この20年間の積み重ねにより、総件数675件の助成、金額は合わせて約17億円となっております。

この助成による研究の積み重ねで、ヘルスリサーチという概念そのものも社会の中に徐々に浸透してきていると感じております。まさしく、今回のテーマである「社会をつなぐヘルスリサーチ」という存在に、少しずつなってきているのかなと感じております。

様々な分野でヘルスリサーチに取り組んでおられる研究者の皆様方、あるいはご指導いただいてこられた先生方のお陰で、このように進んでこられていると、大変感謝しております。特に、昨年ご逝去された開原先生、あるいは今年ご逝去された設立時の発起人であり、その後役員も務めていただいた元京都大学総長の岡本先生、また、東京大学名誉教授の出月先生、こうした先生方に改めて感謝の意を表したいと思います。

次に、毎年岡部先生から私以上に正確に会社の状況を説明いただいておりますけれども、私からもファイザー自体の最近の状況について報告をさせていただきたいと思います。

皆様方もお聞き及びかとも思いますが、医薬品産業は一時期のブロックバスターモデルという、1つの製品が2,000億、3,000億、あるいはもっと大きく売れる、つまり、たくさんの患者さんや先生方に使っていただける薬剤でビジネスが成り立っていた時代から、その辺りの開発がほぼ一段落してきて、最近はアンメットメディカルニーズという、患者さんが少ないところに専門性の高い薬剤を出していくという時代になってまいりました。大きな製品の特許が切れるとともに、ジェネリックに置き換えられていきますので、各企業は経営上も強い影響を受けるという時代になってきております。そうした中でファイザーも、例えばリピトールという高脂血症の薬剤は1年間に1兆円以上世界中で売れていたのですが、これも特許が切れて、直近の売上を見ますと、昨年に比べて既に70％～80％がジェネリックに置き換わって、無くなっているという厳しい状況にあります。

ファイザー全体の全世界での売上も、今年の上半期は9％のダウン、直近の第3四半期は16％のダウンということで、非常に厳しい状況の中にあります。こうした中で、事業の選択と集中で、例えば来年の上半期には、ニュートリションという子ども向けの液体ミルクで、日本では展開していないのですが、中国やフィリピンなどで大きな展開をしているビジネスを約1兆円強で売却したり、また、たくさんの研究所を統合して研究の効率化を図るというようなことを行っております。これらには当然、人員の削減といったことも加わるわけですが、こういうことをしながら売上を維持する。売上が厳しくなったら、利益を維持する、というような、非常に厳しいビジネスをしております。

日本においても厳しいことは変わりはないわけですが、幸い肺炎球菌ワクチンや新しい肺癌の薬剤など、ここ1、2年の間にも新薬も発売しておりまして、何とか頑張っている状況です。

ファイザー株式会社（日本）のビジョンとして、「日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になる」ということを掲げております。こうしたビジョンを達成するためにも、厳しい環境の中でビジネスそのものをしっかりやっていくということと共に、社会貢献という点にも力を入れていきます。

この財団の活動が最も重要な活動なのですけれども、これ以外にも、患者会などヘルスケア関連団体や心や体の問題を取り扱っている市民活動団体への助成支援、また、社員によるボランティア活動を助成する、あるいは疾患啓発活動、そういった色々なところにも力を入れております。

この財団の活動は、その中で最も重きを置いており、会社の状況厳しい中ではありますけれども、是非今後とも支えていきたいと考えております。

最後に、本日フォーラム贈呈式に参加されました全ての皆様方のご健勝とご研究のますますのご発展を祈念して、簡単ではございますけれども、挨拶とさせていただきます。

受賞されました皆様方、本日はおめでとうございました。